

平成19年度 東京都教育委員会受託事業

「『地域力』を活用した青少年の育成」事業報告

環境学習「多摩川の森・自然教室」による 人材育成事業



2008年3月

美しい多摩川フォーラム

教育文化部会・環境清流部会

目次

はじめに	1
「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座・事業のながれ	2
第1部 リーダー養成講座の実施	3
(1)「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座(教育者向け)プログラム	4
同講座参加者アンケート	5
(2)「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座(学生向け)プログラム	11
同講座参加者アンケート	12
(3)「みんなの生涯学習」(東京都教育庁生涯学習部)&西多摩新聞の紹介記事	16
第2部 保育園での「自然教室」の展開	18
(1)「森のムッレ教室」実施保育園・日程表	19
(2) 保育園での実施事例およびサポーターからの感想	
①二俣尾保育園(青梅市)	20
②友田保育園(青梅市)	31
③古里保育園(奥多摩町)	36
④オリンピック保育園(調布市)	39
第3部 リーダー・フォローアップ研修の実施	46
(1)「多摩川の森・自然教室」リーダー・フォローアップ研修プログラム	47
(2) 事例報告資料	48
(二俣尾保育園・古里保育園・オリンピック保育園)	
(3)「多摩川の森・自然教室」リーダー・フォローアップ研修参加者アンケート	58
(4) 保育園児からはがき	62
第4部 参加者のレポートから	67
・日本の未来は幼児の自然体験から 森下 英美子	68
・理想的な環境教育プログラムを体験して 小川 はるみ	70
・「森のムッレ教室」の大きな波及効果 成末 雅恵	72
・多摩川の森から沖縄やんばるの森へ 市田 豊子	74
・リーダー養成講座を振り返って 原島 史	76
自然の階段	78
おわりに	79
「森のムッレ教室」テキスト資料一覧	80

はじめに

地球環境の危機がこれほどグローバルな社会問題になったことはあるでしょうか。子どもをめぐる犯罪がこれほど凶悪化した時代はあったでしょうか。豊かな自然を育んできた地方の過疎がこれほど深刻な事態になったことはあったでしょうか。この三つの問題の共通項は人が自然とのかかわり、人と人とのかかわりをなおざりにしてしまったことに起因すると言えそうです。

次世代の育成は手がかかり、時間がかかり、経済原理には全くなじみません。すっかり経済優先社会になってしまった私たちの社会で育つ子どもたちですが、彼らがこれからの社会の担い手となることを考えたら、手をこまねいているわけにはいきません。

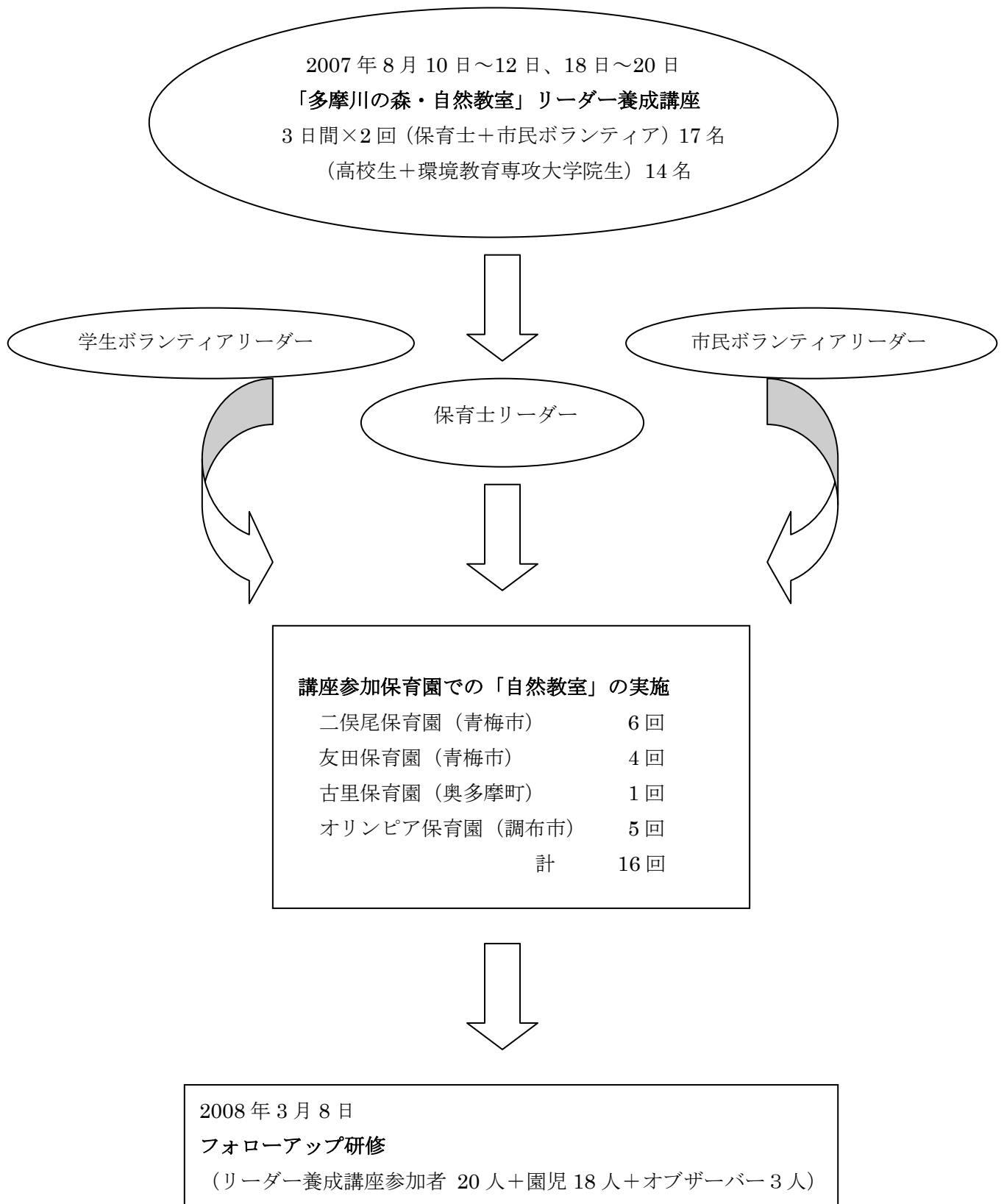
一世代前の日本には、おじいさん、おばあさん、地域の子どもたちを気にかけてくれるおじさん、おばさんがいました。子ども集団のどこにでもガキ大将のお兄さん、オテンバのお姉さんがいて、子どもは野山を駆け回って、遊びの中から様々なことを学び、生きる力を身につけていきました。当事業は、そのような失われた地域の力を復元し、環境の21世紀を担うにふさわしい次世代を育てようというものです。

幸いなことに、50年も前にスウェーデンの野外生活推進協会が開発された5～6歳児を対象とした環境教育プログラム「森のムッレ教室」の手法を、日本野外生活推進協会の協力を得て、導入することができました。その成果は、この報告書のあちこちに溢れ出ていることでしょう。

最後になりましたが、東京都教育委員会、並びに、美しい多摩川フォーラムの事務局を精力的に担ってくださった青梅信用金庫に心からのお礼を申し上げます。

2008年3月13日
美しい多摩川フォーラム
教育文化部会長 下重 喜代

「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座・事業のながれ



第1部 リーダー養成講座の実施



子どもたちを自然の中に連れ出し、野外活動を進めるのが自然の案内人、すなわち、ここで言う「リーダー」です。

リーダーは、プログラムを組み立てるほか、子どもたちが自然の中で様々な発見をする手助けをしたり、エコロジー（生態系）を学ぶためのゲームをリードしたり、自然の中で一層楽しく学ぶための歌を一緒に歌ったりします。

リーダーにはそのためのスキルや知識がなければなりません。この講座では、リーダー養成のための学習（座学）と実習を3日間（22時間）にわたって2回実施しました。1回目は保育士、教員、環境NP0のスタッフ向け、2回目は青梅市地元の高校生と環境教育を専攻する大学院生に集まってもらいました。

参加者は、真夏の暑いさなか、冷房のないまさにエコロジカルな環境の中で汗を拭き拭き座学を頑張り、炎天下のフィールドで実習に励み、一人の落伍者もなく、参加者全員に修了書を授与することができました。

この講座を修了した保育士の方々は、それぞれが所属する保育園で「森のムツレ教室」を開きます。そして、保育士と同じプログラムを修了した環境NP0の方々や学生達は、保育園で開催する「森のムツレ教室」のアシスタント・リーダーとして、保育士をサポートすることになります。

(1)「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座(教育者向け)プログラム

時間	カリキュラム	内容	写真
1日目			
9:00	オリエンテーション グループワーク	・開講あいさつ ・講師と受講生の自己紹介 ・グループ分け ・プログラムとスケジュールの説明 ・受講の目標	
10:00	理論	・地球市民として ・地球環境の今、多摩川流域の自然と暮らし	身近な自然や生き物の知識を教える様子
10:30	自然観察とゲーム	・身近な自然の生き物の知識 ・感覚を磨くゲーム	
12:30	昼食(各自お弁当持参)		
13:30	理論	・子供の心身の発達と野外活動 ・子供とエコロジー	
15:00	実技	・ムツレの歌と遊び (とんびの羽の下・ムツレ鬼)	
15:30	理論	・スウェーデンの野外保育園 ・「ムツレボーイ」の紹介	
16:00		ティータイム	
16:30	理論	・日本野外生活推進協会の理念	森での実習
17:00		1日目終了	
2日目			
9:00	実技	・ピクチャーシアター (ムツレ誕生の物語) ・ムツレの歌と野外ゲーム (巣を変わろう) (キツネとウサギ) ・自然の道クイズ ・ムツレ登場 ・宝探し	
12:30	昼食(各自お弁当持参)		
13:30	理論	・リーダーの心得 ・応急手当 ・野外活動に準備するもの ティータイム	自然の道クイズを作る様子
15:00		ティータイム	
15:30	グループワーク	・自然の道クイズを作る	
16:30	理論	・「ムツレ教室」をひらくために	
17:00		2日目終了	
3日目			
9:00	実技	・パン生地作り(野外食の準備)	
9:30	理論	・「ムツレ教室」のプランニング法 ・「ムツレ教室」のプラン作成	
10:30	グループワーク	・グループ発表の準備 ・教材の作成	パン作り実習の様子
多摩川へ(水の精ラクセ登場)			
12:30	実技	・野外食の実習 (おじりパン、シチュー)	
13:00	グループ発表	・グループ毎の「ムツレ教室」の発表(各グループ30分) ・講評	
14:30		・ふりかえり、アンケートの記入	
15:00		・質疑応答	
15:30		・修了式	グループ発表
16:00		終了、片付け、解散	

「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座(教育者向け)参加者アンケート

実施日時:2007年8月10日(金)~12日(日)、9時~17時(最終日16時)

天候:3日間晴天

実施場所:二俣尾・武蔵野市民の森「自然体験館」

受講者数:17名

① 福田 珠子 (二俣尾保育園理事長、「美しい多摩川フォーラム」環境清流部会長)

何気なくやり過ぎてきていた事を気づかされました。

細やかな視点で、目を低く持って対応するということが大変、大切なことであると。

蔓の説明の時は大変困りました。共生ということは、常に頭にあり、どんな風に伝えるか悩んでいることでした。たとえば鹿の獣害についてなどはもっとも私たちの悩み事ですから。

子どもたちの心に立ち返って、物事を考え、めぐらせるということの重要性を、又更に思いました。これを、広く(もっともっと)幼い子等に届けるのが私たち大人の仕事であることを再確認しました。良い教室で学べたことを感謝したいと思います。ありがとうございました。

② 尾方 真由美 (二俣尾保育園)

夏の暑い時期ということもあり講師の先生方、ご協力して下さった皆様にまず感謝致します。私は、この二俣尾という地区にお世話になり早七年。大きな自然環境の恵みを頂きながら、いかに子どもたちに伝えていくか私なりの課題にしていました。

今回参加させて頂き、すぐに活用できる遊び(ムツレのゲーム)に出会え、明日からの保育に活かしていきます。子どもたちが野外に出かける時の服装にも理由があり、説得力を感じました。

余談ですが、最終日のねじりパンとてもおいしかったです。スープまで作って頂きごちそうさまでした。最後の竹(ねじりパンで使用済)を一人のスタッフの方が洗って下さっていましたが、子どもたちにも自分の出来ることは、最後までやるように伝えております。私は洗って戻しましたが、ある程度受講者も自分の事は、自分でと思いました。主催者側の方々の水面下のご努力に頭が下がりました。ありがとうございました。

③ 神林 幸恵 (二俣尾保育園)

普段、子どもたちと過ごしている自然(山)で研修が出来、沢山のことを学ぶことができました。いつもなら、見すぎて通りすぎてしまう草花、昆虫などを発見し、子どもたちと観察することの楽しさを学びました。話として聞くだけでなく、実際に自分自身が経験することで、より子どもたちに沢山の知識を教えていけること、また子どもたちからも、学ばせてもらえることも知り、よい経験となりました。

私の園の子どもたちは、このような、自然がすぐ身近にあり、経験できることは、とても幸せなこ

とだと思います。講師の方の理解しやすい指導で、本当に勉強になりました。また同じ保育士の方との交流をもつことが出来、今後も色々な形で今回学ばせていただいたことを生かせればと思います。

手作りパン、初めてでしたがとてもおいしくいただきました。3日間楽しく過ごせました。ありがとうございました。

④ 末次 桂子（友田保育園）

ムッレ教室の目的、目標とすることが理解出来ました。

3日間で学んだことを、すぐ現場におろすということはむずかしいけれども、自分自身の保育の中に自然のすばらしさ大切さということ、とり入れていくことは出来ると思った。それには、自分自身がもっと自然と仲良くなり、興味をもち、生活することから始めていきます。図鑑を手にとり持ち歩くところからはじめます。

開催時期については、この真夏の時期でなくてもよかったのではと思います。1日集中しつづけるのは大変でした。スタッフの方は、それ以上とおもいますが。青梅のこの自然あふれる山々にかこまれているものの、実際に地域の山に入るのは、むずかしい現状です。（手入れされおらず、けものみちのみの山ばかり）どうか行政や地域に働きかけて山や森での活動が、出来るようにしていただきたいものです。

⑤ 小松 スミエ（友田保育園）

ムッレ教室のことは何もわからず、参加しました。日を重ねるうちに自分の中で楽しんでいる自分を発見、子どもたちに指導する前に自分が楽しむことが、とても大事だと痛感。また子どもたちと一緒に考え、一緒に調べ共有していくプロセスも大事だと思いました。職場に戻り、すぐ取り入れられることから実行していけたらと思います。

自然に対する考えをもっとグローバルに考え、虫、動物、植物、人間、みんな地球に住んでいる仲間だということ。人間のエゴでむやみに生態系をこわしてはいけないことを強く感じました。とても楽しかった!!です。

⑥ 岡部 弘美（古里保育園）

今回この講座に参加することがきまってから、自分自身、何も準備していなかったことを反省しました。今の時代、調べることはできたはずなのに……。ゼロからではなく、ほんの少しでも何か知っていることがあれば、もっと違っていたのになぁ……と感じました。

「自然と触れ合う」……と一言で言っても、それをどの様な目的で、どの様に計画を立て、どの様に実行していくか……という部分が、わからずにいたので、その部分が何となくわかった気がします。保育の場面でもそうですが、何でも突発的に行うのではなく、目的があり、計画があり、実行！！なんですね。少しずつできるところから始めて行きたいと思います。そして、もっともっと私自身勉強しないとイケないと感じました。身近にこんな素敵な施設があったこと、初め

て知りました。今後活用させていただければ嬉しく思います。3日間暑くてとてもハードでした。先生をはじめ、スタッフの方々も同じはずなのに、とても一生懸命で感謝いたします。

⑦ 内藤 博美 (古里保育園)

自然を大切にするための研修というのは、わかっていたが、対象を子ども向けに指導するという
ことでさらに私たちにもわかりやすい内容で身につきました。

山あり川ありと、ムッレさん・ラクセさん登場にとっても良い環境であったと思います。自然体験館
も木の香がとても良かったです。2日目の野外での勉強も良かったと思います。

世間では環境問題がどうのこうのと難しい話をしていますが、まずは身近にある事を見つめ直
し、自分たちでできることをやっていかなければ・・・と思いました。そして私たちは子どもたち
にその大切さを伝えていかなければ・・・と。

3日前の自分はくもの巣を払っていたのですが、今は、見るのが楽しくなりました。知識も広がり、
楽しみが増えました。ありがとうございました。

⑧ 吉野 一枝 (オリンピア保育園園長)

講義の内容については、具体的なことを取り上げられていてとても分かり易かったです。また、
幼児に携わっている側から今後はどのようにして地球を愛していけば、今より私たちは本当の
意味での幸せがつくれるんだろうと考えたら、小さな1歩をふみ出すには、私たち大人が、子
どもに伝えていくべき事をやり始めなければならないということに気づかせてもらいました。ゴ
ミ問題も色々な問題は尽きぬけれど、子どもに分かってもらえる(理解できる)方法を使って、ど
んな所でも、知らせていけること、また自然界にはムダな物は何1つないということに改めて感
動！！

1つだけ どうしても気になっていること —「人間が全滅したらどうなる？」の高見先生の質問
に、私は「他の動植物も滅亡する」に挙手しました。何故なら「人間も自然界の1つというのなら、
やはり人間の存在も他の動植物に対しても悪さばかりしているとは、思いたくない。希望も持ち
たい気持ちと人間が与える好循環も多少なりともあると思いたいからでした。」考えが子どもみ
たいで甘チャンでしょうか・・・。

今後、少しでも子どもたちにこの講座で学んだことを活かすようがんばりたいです。どれだけや
れるかは疑問ですが—「自分が好きになれる子ども」を私たちは目標にしています。このような
機会を与えていただきありがとうございました。

⑨ 松本 雅子 (オリンピア保育園)

「どんなことをするんだろう」とワクワク、ドキドキの初日。そして、夏を感じられた3日間でした。
自然がこわされていく実感、これをどう子どもたちに伝えていくのか？でも絶対に伝えていかな
なければいけないということを本当に思い知らされました。

楽しいゲーム、クイズなどは、明日からでも保育の中に生かしていけます。まわりに、このような

自然が豊かでないところでも生かしていける方法を見つけつつ実践していきたいと思います。
楽しい仲間、この講座を支えて下さった先生方皆様、本当にありがとうございました。
私が楽しんだたくさんの方のことを、子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。
クモの目の話は、本当にびっくり。子どもたちに自慢したいです。クモの観察もしていきたい
と思います。「クイズ クイズ 何一んのクイズ」「サテ、クモの目は、いーくつ」

⑩ 御園生 秀樹（都立青梅総合高校教諭）

日頃の自分の仕事環境とは違っただけに、色々つまみ食いも感じたが、楽しく過ごさせていた
いた。リーダー養成だけに、早足のプログラムだったが、もう少し余裕があったらと思った。歌
やゲームは、かなりまいました、保育園でも働けるかな？と少々思った。
ムッレ教室他スウェーデンのプログラムをいかに日本の文化に融合させていくかが最大の課題
と感じた。色々、ありがとうございました。
来週の高校生とても心配です。よろしくお願いします。

⑪ 小川 はるみ（全国巨樹・巨木林の会 理事）

環境啓発教育の中で子どもを対象とするプログラムは、リーダー自身も子どもから学ぶことが
多くあるので、以前から興味があった。
このプログラムはファンタジーと結びつけ、将来への希望とつながる気がした。又プログラム自
体も非常によく研究されて他に類をみない。
実際に受講してみて専門知識も必要だと感じた。
今後もこのプログラムが日本中で普及する様、出来ることをしてゆきたい。
自分自身が自信をもって伝えられる様、スウェーデンに行ってみたい。
自分の庭で、ふり返りが出来るものはやってみたい。（自分のものにする為）
真夏の実施は暑さとの闘いでしたが、無事終わって見るとたいへん そう快感がありました。
ありがとうございました。

⑫ 成末 雅恵（NPO法人自然環境アカデミー）

3日間、あっという間に楽しく過ごさせて頂きありがとうございました。実際に子どもたちを相手
に実践したくなりました。保育園の先生方のパフォーマンスや行動力にも感心し、心強く思
いました。会場もスタッフの方々にも恵まれ、感謝、感謝です。
保育士以外のNPOや一個人としての具体的な展開については、人集めや場の設定など、ま
だまだ課題はありそうで、すぐには実践とはいかない気がしています。
ただ、ムッレ教室における森や自然への理解、アプローチの方法などは、現在取り組んでいる
自然観察会にも生かしていけることが沢山ありました。日本における幼児の環境教育の一つの
切り口として今後期待します。ありがとうございました。

⑬ 柏倉 倫子(NPO法人自然環境アカデミー)

講師の先生はもちろん、おやつ等を差し入れて下さったり、周囲のお世話を下さった方々の支えで、有意義な内容の研修を大変恵まれた環境で受講できたことに、まず心より感謝いたします。久しぶりに自然の中に身を置き、心も日常から離れて、幼児向け環境教育について体験し、いろいろ考え、頭も使って、良い刺激になりました。

今まで、環境問題について学んできて、仕事にしていた時期もありましたが、現在は子育て中で、何かの形で社会の中に自分の経験や力を活かさないだろうかと模索していたところでした。この研修を受けて、週に1回は自分の子どもを森の中へ連れ出すこと、月に1回はNPOの中で企画を立ち上げ開催していくことを目標にすることに決めました。幼児や親子を自然の中へ連れ出し、ECO-SYSTEMについて体験してもらい、環境問題と自分がつながっていることを実感してもらおう・・・という趣旨の企画を継続的に開きたい、ライフワークとしたいと考えています。

きっかけを与えてくださって有難うございました。理論的なことや手法は、研修の資料や文献を読んで自分なりに整理したいと思っています。1～4歳児対象のプログラムにも挑戦しようと思っています。

⑭ 市田 豊子 (NPO法人やんばる森のトラスト 事務局長)

長い間、自然観察会などのリーダーをしています。幼児期の子どもたちの環境教育にとり組んでいる日本野外生活推進協会の活動に大変興味を持っていました。今回講座を受講する機会を与えていただき、心からお礼申し上げます。自分が持っているものを、どのように表現し伝えるべきかたくさんヒントを得ましたので、今後、何度も経験(体験)して、子どもたちに楽しく「循環」を伝え、地球を守る(大切に)する)次世代を育てていけたらと思っています。

今後とも、いろいろとお世話になることと存じますが、よろしく申し上げます。

⑮ 小俣 敬子 (武蔵野市土曜学校)

暑い中での講習でしたが、無事3日間受講することができました。本当にありがとうございました。限られたフィールドの中でも、確かな自然の営みを感じることができ、子どもたちに伝えることは無限にあることを学びました。日常いろいろなお立場で子どもや自然とかかわっている方々とのグループワークがとても新鮮でした。

今後これをご縁に協力しあっていたら、より楽しい活動ができると思いました。

私は、小学生～大人を対象に活動しているので、幼児体験の大切さは、いつも痛感しております。身近に自然がなくなり、大人が子どもに遊びを伝える機会が少なくなってしまった今、こういう活動は自然を守るためにますます重要になっていくでしょう。小学生からでは、どうしても理屈が先に立ってしまい、自然と自分との一体感、自然を愛する心はなかなか育ちにくいと感じます。できたら次回は自然の中での道具の使い方、クラフトワークなどを勉強させていただきたいと思っています。

⑩ 関谷 央子（立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科 修士2年）

とても天気がよく晴れ渡って暑い3日間でした。

私は、他のみなさんとは違い、幼児教育を実践している立場ではありませんが、参加してみてムッレ教室の成り立ちや、内容の詳細を把握することができました。ドイツの森の幼稚園とスウェーデンのムッレ教室を、ひとくくりにして考えがちでしたが、ドイツの方が自由度が高く、ムッレの方が比較的体系的にまとめられており、プログラム内容もより環境教育を念頭においたものになっていると感じました。やはり本やネットだけの情報だけでは、中身を把握するのは難しいものだとつくづく感じました。この記憶が新しいうちに、是非、自分自身の論文へ生かしていきたいと思います。

一つ疑問に感じたのは、パン作り。北欧でパン食はあたり前ですが、日本では現在、小麦の多くは外国からの輸入に頼っている状況ではないでしょうか。食に関しては、地域で取れたものを使うと良いと思いました。例えば秋なら田んぼを見せて、おにぎり作るとか。日本食の方が良いと思います。より日本らしい、日本人に適したプログラムを期待します。

⑪ 原島 史（美しい多摩川フォーラム事務局）

真夏の暑さを忘れてゲームしたり、森(山)の声を聴いたり、子どもの頃に戻ったようでした。山だから季節を一層感じられ、虫や草木を観察することが出来ました。一番印象的だったのは、「巣をかわろう」です。皆で遊べるからです。そして講義の中でみせてもらった12才のカナダの女の子のビデオも印象的でした。このテープは、本当に多くの人に知ってもらいたいです。（「ソフィーの世界」みたいでした）

ねじりパンも、おもしろかったです。只、皆パン作りで手が汚れる前におわんを用意するとか、人数が多いし、焼く時間をどうしよう等、考えながら、教室をやっていたら良いなと思いました。そして、ムッレ教室が(高校生たちも含め)広がると良いと思いました。

(2)「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座(学生向け)プログラム

1日目

- 9:00 オリエンテーション・開講あいさつ
グループワーク・講師と受講生の自己紹介
・グループ分け
・プログラムとスケジュールの説明
・受講の目標
- 10:00 理論
・地球市民として
・地球環境の今、多摩川流域の自然と暮らし
- 10:30 自然観察とゲーム
・身近な自然のいきものの知識
・感覚を磨くゲーム
- 12:30 昼食(各自お弁当持参)
- 13:30 実技
・ピクチャーシアター
(ムッレ誕生の物語)
・ムッレの歌と野外ゲーム
・自然の道クイズ
・宝さがし
・ムッレ登場
- 16:00 ティータイム
- 16:30 理論
・日本野外生活推進協会の理念
- 17:00 1日目終了



2日目

- 9:00 実技
・パン生地作り(野外食の準備)
- 9:30 理論
・子供の心身の発達と野外活動
・子供とエコロジー
・リーダーの心得
- 12:00 実習
・野外食の実習(ねじりパン、シチュー)
- 13:30 理論
・応急手当
・野外活動に準備するもの
- 14:30 理論
・「ムッレ教室」のプランニング法
- 15:00 グループワーク
・「ムッレ教室」のプランの作成
・教材と自然の道クイズの作成
- 17:00 2日目終了



3日目

- 9:00 グループ発表
・グループ発表の準備
- 10:00
・グループ毎の「ムッレ教室」の発表
(各グループ30分)
・講評
- 12:30 昼食(各自お弁当持参)
- 13:30
・スウェーデンのムッレボーイ
(野外保育園)の紹介
- 14:30
・ふりかえり
・アンケートの記入
- 15:00
・「ムッレ教室」をひらくために
・質疑応答
- 15:30 終了式
- 16:00 終了・片付け・解散



「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座(学生向け)参加者アンケート

実施日時：2007年8月18日(土)～20日(月)、9時～17時(最終日16時)

天候：3日間晴天

実施場所：二俣尾・武蔵野市民の森「自然体験館」

受講者数：14名

① 竹本 雅 (都立青梅総合高校2年)

自然にふれ合ったり、話を聞いたりして、自然のことが少し分かった気がしました。全体的に楽しかったと思います。

② 嶋崎 俊之 (都立青梅総合高校2年)

講義の内容は、とてもわかりやすくてよかった！

自然の事がわかってよかった！全体的によかったと思います。

③ 畑名 佑香 (都立青梅総合高校2年)

講義の時間とか眠い時とかいっぱいあったけど、先生たちの目がやばいくらいに真剣だったので、なかなか眠れなかった。

14人もの人たちが集まったのに、グループ分けにしたがってのグループ行動が多くていろいろな人との交流ができなかったのが少し残念だった。

3日間の間にこんなに何回も山に入ったのは初めてで楽しかった。

初めの日はこのような体験が好きそうな人とそうでない人と明らかすぎて、すこし空気がおもかったけれど、最終日はなんとなく、ほんわかした空気で、いごちよかった。日帰り研修じゃなくて泊まりのほうが、みんながより仲良くなれたのかなあーとか考えてしまいました。

④ 橋本 圭子 (都立青梅総合高校2年)

3日間、色々な話が聞けたり楽しい活動ができてよかった。1日目は雨が降っていたから、そんなに暑くなかったけど、2・3日目は、すごく暑くて大変だった。でも普段できない体験(パン作り&焼くなど)ができてよかった。3日目の昼休みに有志とした山登りは、すっごく疲れたけど登りきったときとかは、すごい達成感が得られたから登れてよかった。

一番印象に残っているのが、話を聞いたこと。エコロジーとかムツレの話など、はじめはよくわかんなかったけど、わかりやすく説明してもらい、よくわかった。悪かった点は、ない?と思う。

本当にいい体験になりました。3日間ありがとうございました。

⑤ 堀井 美緒（都立青梅総合高校2年）

この3日間とても楽しかったです。今まで出来なかったような貴重な体験をすることができました。

1日目は少し不安もありましたが、だんだんと不安も消え、楽しさが増えてきました。自然を五感で感じることも、とても楽しかったです。

2日目は1日目以上に楽しむことが出来ました。他のメンバーとも仲良くなることが出来たし、川に入ったり、ねじりパンを使ったり、野外食をみんなで食べたり……。1日中楽しくて疲れを忘れるほどでした。

3日目は、グループごとに発表をすることが出来て、とてもよかったです。1日目、2日目で学んだことを発表するには、自分でしっかりと理解しなくてははいけません。改めて学んだことを思い返したりすることができたのでよかったです。

3日間、本当にあっという間でした。でもその中でたくさんを感じ、学び、体験することが出来ました。本当は、みんなで泊まったり、もっと長くやりたかったのですが、3日間という限られた時間だったからこそ、1日1日を大切に、そして一生懸命取り組めたのかもしれない。リーダーの方々、スタッフの方々には、このような素晴らしい企画をしていただいて、とても感謝しています。この講座に参加することが本当に出来て良かったです！！3日間本当にありがとうございました！！ぜひまたこのような企画に参加したいです。いつか自分で「ムッレ教室」を開いて、子どもたちと自然を楽しみたいです！

⑥ 尾山 樹（都立青梅総合高校2年）

3日間連続で山を昇り降りし続けて、ものすごく、つかれたけれども、それ以上の楽しさでいっぱいです。また、自然の大切さをさらに知ることができ、また、虫への見方も少しかえることができました。

⑦ 黒澤 貴之（都立青梅総合高校2年）

いろいろ大変なことがありましたが、自然を知ることができる体験ができてよかったですと思います。パン作りやスイカ割りなどもできてよかったですと思います。

⑧ 奥野 瑛子（都立青梅総合高校2年）

最初は正直言って、イメージとのギャップの差が激しくて、どう反応して良いか分かりませんでした。けれど、2日目、3日目からだんだんなれていき、楽しくなってきました。友だちもふえたし、色々な事も学べたし、とても良かったと思いました。

⑨ 峰尾 祐輔（都立青梅総合高校1年）

今回初めて参加して、最初は虫や山がきらいだったのですが、受講していくと、虫の役割を理解すると好きになりました。山のエチケットなど、たくさんの事を学べてよかったです。

⑩ 古川 朋行（都立青梅総合高校1年）

結果的に参加して、とても良かったと思います。

1日目は涼しくて、だらけずに行動することができましたが、2日目、3日目は、とても暑かったので少しだらけてしまったので、そこを反省しようと思いました。2日目のシチューやねじりパン作りを皆で協力しておいしくできたときは、とてもうれしかったです。山や川にも行き、自然の生物と触れ合い、すがすがしい気持ちにもなりました。自然やエコロジーなどの知識も僕たちに教えてくださってありがとうございました。また機会があれば楽しく参加したいと思います。

⑪ 山形 純代（東海大付属菅生高校3年）

班に分けて活動したので、ゴチャゴチャせずによく活動ができた。

駅から会場が近かったので参加しやすかった。又、会場から、川、山、森まで近いこともあり、様々な自然の中で活動をさせて頂いたので、中身の濃い充実した3日間となった。

自然の中の循環やスウェーデンの教育など非常に為になるお話を聞かせて頂けて、とても勉強になった。

スイカ割りや野外調理や川遊びなどの、お楽しみ企画が途中に入っていたことで、受講生同士又スタッフ（リーダー）の方々とも親睦を深めることができたと思う。

ムッレ教室のデモンストレーションは、恥かしかったけど、他班の協力もあり、無事に終わられたことがよかったです。3日間、本当にありがとうございました。

⑫ 斎藤 大輔（東海大菅生高校2年）

全体的には、良かったと思う。充実した3日間になりました。

発表はうまく出来なかったが、この3日間の中で学んだ事をいかして、これからどうつないでいくかが大切だと思いました。

⑬ 白井 みか（東京学芸大学大学院・環境教育専攻）

講義全体の流れは、座学と実習のバランスがとれ、受け入れやすくてよかったです。また、休み時間も適度にあり、遊びも盛り込まれていたのが楽しむことが出来ました。

講座の主旨として、ジュニア・ムッレリーダーの育成がテーマであったと思いますが、高校生のみならず、それぞれ頑張って最終的には、自然に楽しみ、子どもたちに伝えてゆける一歩を踏み出したのではないかと思います。

私自身も、普段、来ることがあまりない場所に来て、自然に触れることができ、今後、大学院で環境教育を考えてゆく上でのヒントを得ることができたと思います。
ムッレという概念が日本にどのように溶け込んでゆけるのか、今後も期待しています。

⑭ 大久保 希（東京学芸大学大学院・環境教育専攻）

幼児と一緒に自然科学の知識も含めて、自然体験をしながら学ぶということは聞いていましたが、5～6歳児に何をどうやって教えるのか想像が付きませんでした。けれど、虫喰いの葉を見たり、腐っていく木やキノコを見ながらだと大変わかりやすく、食物連鎖のエコロジーについて理解することができました。5・6歳児だけではなくて学生や大人でも楽しく学べると思います。ムッレさんの役割については、今回は私たちの冷めた(?)心では十分わからなかった(感動できなかった)と感じるので、ぜひ子どもたちの反応を見てみたいです。

日本では、自然体験活動も自然保護教育として勉強や学習という要素が強くなってしまったりと、大人の視点で作られたプログラムが多いように感じますが、妖精が登場したり、遊びをしたりと、子どもの目線で“楽しく活動する”という立場がとても印象的で、「いいなあ」と自然に思いました。

美しい多摩川フォーラム 『多摩川の森・自然体験教室』の取組

東京都では平成19年度の重点事業の一つとして「地域力」事業を実施しています。この事業の一環として取り組まれた「多摩川の森・自然体験教室 高校生リーダー養成講座」が8月18日～20日、青梅市で実施されました。

この事業を主催したのは「美しい多摩川フォーラム」(事務局:青梅信用金庫地域貢献部)で、地域に暮らす人々が「多摩川」をシンボルに、豊かな多摩の自然と文化を守り、「地域活性化」と「地域の自立」を図ることを目的として今年7月に設置された団体です。その「美しい多摩川フォーラム」の教育文化部会が、豊かな青梅・奥多摩の自然を生かして、地元の幼稚園児・保育園児を対象に自然の中で五感を使った様々な体験活動の機会を提供しようと考えて「多摩川の森・自然体験教室」が企画されました。その第一弾として実施された保育士向けリーダー養成講座に続き、第二弾として実施されたのが高校生リーダー養成講座です。幼稚園児や保育園児を対象とした自然体験教室を実施していくためには、幼稚園や保育園の先生が指導にあたる外、様々な地域の人々の協力が必要となってきます。そこで、子供たちのよきお兄さん・お姉さん役として高校生の力を借りようということになったのです。

小雨降る8月18日の朝、JR青梅線二俣尾駅近くにある「二俣尾・武蔵野市民の森 自然体験館」に高校生12名(大学生2名)が集まってきました。

この講座は、50年前にスウェーデンで開発された環境教育プログラム「森のムッレ教室」の手法を用いて実施されます。「ムッレ」とは、スウェーデン語で「土壌」を意味する森の妖精のことを指します。子供たちをファンタジーの世界へいざない、子供と自然界との架け橋の役割を担います。

3日間にわたるリーダー養成講座のプログラムは、実際に青梅の森の中に入り、自然観察や森の中で行うゲーム(自然の道クイズ、宝探しゲーム)などのやり方を学んだり、「エコロジーをわかりやすく伝えるためには」、「森の自然の約束を教えるためには」、「自然観察、自然遊びを企画する」といった班に分かれてグループワークを行うなど、多岐にわたる内容でした。

講座の最後に、下重喜代さん(「美しい多摩川フォーラム」教育文化部会長)が、「皆さんは自然遊びの達人になってほしい。それには自然に親しみ、自然を好きになり、自然を理解することが大切です。私が心掛けていることは、ものを言えない生き物の声に耳を傾け、その代弁者になることです。」と話してくださいました。



リーダー養成講座に参加していた高校生たちは、3日間誰も休むことなく、プログラムをやり終えました。9月下旬から青梅市内各地の保育園で月1回のペースで実施される「多摩川の森・自然体験教室」のボランティア・リーダーとして活躍していく予定です。

●「多摩川の森・自然体験教室」の講師として関わった 日本野外生活推進協会 足立邦明さんにお話を伺いました。

この講座を担当する中で、一番大切に
したことは、生徒達に自信をもたせること
です。「自分自身に可能性がある。」「や
ればできる。」といった人間としての存在
感のようなものを感じさせたいと思いました。



「環境を守る」ことも原点は、自分を大事にすることであり、他人も同じように大事にすることであります。また、自然を愛することは、人を愛することであり、自分を愛することであるとも考えます。だから、この講座の中で生徒達が自分自身を見つめ直し、再発見して少しでも自信をもってくれたら嬉しいです。そして、一人でも多くの生徒が足を一歩前に踏み出して、「森のムッレ教室」のサポーターとして活躍してくれることを願っています。

【連絡先】

美しい多摩川フォーラム事務局
(青梅信用金庫 地域貢献部内)

〒198-8722 東京都青梅市勝沼三丁目65番地

TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4646

E-mail forum@tama-river.jp

URL <http://www.tama-river.jp/>

※「地域力」

住民・企業・NPO、行政などの多様な主体が地域の公共的・社会的課題に自ら気づき、その地域の社会資源の効率的・効果的活用を図りつつ、
16 相互に連携・協働して地域の課題を解決し、地域を発展させていく力

第2部 保育園での「自然教室」の展開



保育士の皆さんは、試行錯誤しながら「リーダー養成講座」の成果を徐々に保育の現場に生かしてくださいました。果たして、森の精「ムツレ」を日本の子どもたちが受け入れてくれるものかと心配しながら。

しかし、環境先進国スウェーデンで50年の歴史を経て練り上げられた「ファンタジー」の世界を、子どもたちは目を輝かせて両手を広げて受け入れたのです。発達段階において、5～6歳の子どもは現実とファンタジーの世界を行ったり来たりすることが、目の前で実証され、ファンタジーを忘れかけた大人は目を見張ったのです。

そして、子どもは身近な自然の営みを通して、エコシステムを論理的にしっかり理解できることも実証されました。

子どもは感性豊かな好奇心いっぱいの小さな大人であるといわれています。子どもの「どうして?」「なんで?」「これなに?」にしっかり向き合うことがいかに大事なことが、再確認できました。

この世の中は、わからないことだらけです。答えが出なくとも、子どもと一緒に考えてみるこそが大切、ということです。

このトライアルは始まったばかりです。これから受講者の皆様が、それぞれの現場の実情にあわせ、フィールドにあわせた創意工夫を重ねて、より良いプログラムを開発し、小さな地球市民を育ててくださることを期待します。

(1) 「森のムツレ教室」実施保育園・日程表

保育園名		所在	児童数	ムツレ教室実施日程					
二俣尾保育園	青梅市	中村ヤエ子	45名	9月29日(土)	10月27日(土)	11月24日(土)	12月22日(土)	1月26日(土)	2月23日(土)
友田保育園	青梅市	宇津木順一	80名		10月27日(土)	11月24日(土)	12月22日(土)	1月26日(土)	
古里保育園	奥多摩町	師岡さと子	90名			11月9日(金)			
オリンピック保育園	調布市	吉野一枝	95名	9月21日(金)	10月5日(金)	11月14日(水)	12月11日(土)		

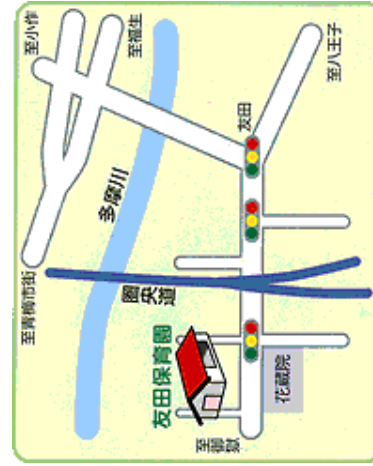
◎保育園で開催される「ムツレ教室」に、ムツレ・リーダー・養成講座を修了した皆さまのボランティア参加を期待します！

- * 皆さまそれぞれが、参加可能な日程が提示してある保育園の担当者に連絡をして、参加の申し込みをしてください。
(参加希望人数が多い場合は、先着順となります。各保育園の様子はホームページを検索してください。)
- * 「ムツレ教室」の開催時間はおおむね午前中の9時前後～11時前後となります。(古里保育園では、お弁当の時間が別に加わります。)
活動は各保育園の指示に従ってください。
- * 各保育園は、参加者が決まり次第、参加者名と簡単な当日のプログラム概要を「美しい多摩川フォーラム」事務局(青梅信用金庫地域貢献献部内)までご連絡ください。(事務局 ☎0428-24-5632 E-mail:forum@tama-river.jp)
- * 事務局で参加者のボランティア保険をかけますが、当日は事故のないように各自責任をもって行動してください。

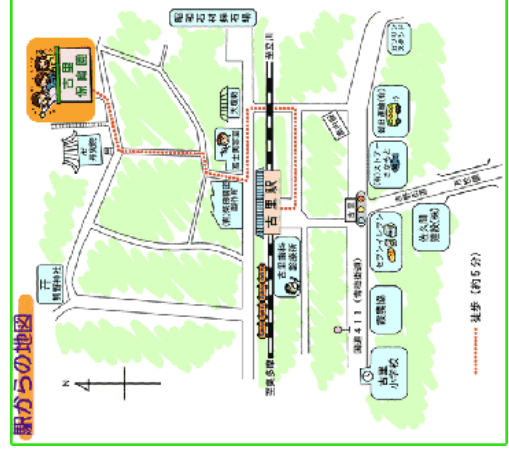
各保育園への地図とアクセス



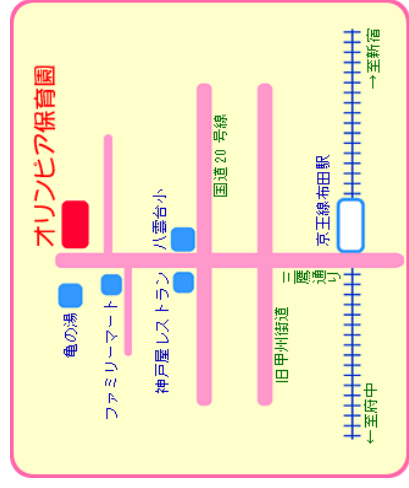
【二俣尾保育園】(駅から徒歩3分)



【友田保育園】
JR青梅線「小作駅」西口下車徒歩20分
多摩バス「小作駅西口発友田経由」
青梅行き「友田南」下車徒歩1分



【古里保育園】(駅から徒歩5分)



【オリンピック保育園】(駅から徒歩10分)

(2) 保育園での実施事例およびサポーターからの感想

①多摩川の森・ムツレ教室 レポート(二俣尾保育園:計6回)

実施日時	<1> 2007 年 9月 29日(土) 9時 ~11時 天気(雨)		
保育園名	二俣尾保育園	参加児童年齢/人数	7歳/3人、8歳/4人、10歳/3人
指導保育士名	神林幸恵、尾形真由美		
参加ボランティア名	高見幸子(国際NGO ナチュラル・ステップ・ジャパン代表)、福田珠子、下重喜代、森下恵美子、成末雅恵		
プログラム概要	<p>第1回森のムツレ教室開催(自然体験館)</p> <p>自己紹介、ルーペ等の説明、ムツレ教室の約束</p> <p>ゴミの行方実験、ピクチャーシアター、ムツレの歌、ムツレ鬼等のゲーム</p> <p>おやつタイム、コケの観察、終わりの会</p>		
子どもたちの様子	<p>第1回ということもあり、参加児童年齢が高く、卒業して久々の出会いということでもかなり興奮気味であった。低年齢の子どもの方が静かに話が聞けていた。ムツレ誕生のピクチャーシアターは自分の番をドキドキしながら待っている様子が読み手にも伝わってくる。ムツレさんとの出会いを楽しみにしている。多様な情報の中で、かなり振り回されている子どもたちだが、ムツレ鬼や巣を変えようのゲームでは段々夢中になり、最初「やりたくない。」と言っていた男児が「またやりたい」といつてきた。次回に期待を持つ方法として、皆で埋めたりんごの皮、ペットボトルがどう変化するのか？毎回見ていきたいと思う。ルーペを使って木に発生しているコケの観察では、雨の道筋を追ったり小さな赤い斑点を質問して、虫の卵と分かり驚いていた。</p>		
反省点	<p>対象年齢の把握が出来ていなかったことが、最も反省すべき点であった。</p> <p>途中皆様に助けて頂き自分の限界を感じながらも、少しずつ体得していきたいと痛感しました。</p> <p>一緒に子どもたちと考えて過すというより、頭ごなしに押さえつけて話をしてしまった。</p> <p>子どもたちは山に行けると思ってきたとのこと。次回の計画を密にして自然観察や自然と共存できる遊びも広げて行けたらと思う。</p> <p>共に楽しむ余裕がなかった。</p>		

サポーターからの感想

成末 雅恵（NPO 法人自然環境アカデミー）

対象児童の年齢が小学生（低学年～中学年）と高かったために、研修で学んだことをそのまま当てはめるのは難しいと感じ、年齢層の絞込みが必要と思われた。

どの子も興味や関心が高いこと。しかも保育園時代に担当の保育士さんに育てられていることなどから、地域に密着した取り組みになっていると感心した。また、保育園の園長先生の協力がないと、保育士の立場だけでは実施が難しいと痛感した。

実施日時	<2> 2007年 10月 27日(土) 9時 ~11時 天気(雨)		
保育園名	二俣尾保育園	参加児童年齢/人数	7歳/2人、8歳/1人、10歳/1人
指導保育士名	神林幸恵、尾形真由美		
参加ボランティア名	福田珠子、成末雅恵、原島史、橋本圭子(高校生)		
プログラム概要	りんごの皮、ペットボトルの確認、山散策(自然観察)、秘密の袋		
こどもたちの様子	<p>あいにくの雨だったが子どもたちは元気に参加。前回のりんごの皮、ペットボトルはどのようになっているのか。子どもたちと観察する。においを嗅いだり、りんごの皮は自然に戻っていくものだと学ぶ。山では雨だから出会える生き物に多数遭遇。</p> <p>ルーペを活用し積極的に観察。自分が知っている知識を発言したりと興味のあるものによく目を向けていた。またゴミ袋を持ち、山に落ちているゴミを積極的に拾う姿も見られた。秘密の袋ゲームでは少し難しくしてしまったものの、男児1名はよく感触を確かめ、全て当てることができた。</p>		
反省点	秘密の袋は1回目ということで中身をもう少し子どもが当てやすいようなものにすればよかった。		

サポーターからの感想

成末 雅恵 (NPO 法人自然環境アカデミー)

2回目のボランティア参加なので、子どもたちとも、より仲良くなれ、とてもなごやかで楽しいムッレ教室でした。子どもたちが私の名前を覚えていてくれて感激でした。台風接近の小雨降る中、いつも出会えない大きなミミズやサワガニ、ヤマアカガエル(?)などに、何回も遭遇し、その度に子どもたちが大きな歓声を上げていました。拡大鏡のついた容器を用意していたので、それらをじっくり観察できたことが、また子どもたちと生き物の距離を縮めた気がしました。足元の生き物に目を留めることのできる子どもは、きっと優しいまなざしをもった大人になるのではないのでしょうか。

山の中に子どもたちを連れて行くだけで、大人はそれほど手をかけなくても、子ども自らの好奇心や関心で、どんどん発見し成長することを実感しました。

又、高校生が参加したことも嬉しかったです。一方、小学校の行事と重なり、参加者が半分位に減ってしまったことが残念でした。

しかし、参加した子どもたちも「来月も」と言って目を輝かせていたので、又来てくれることを期待しています。参加している子どもたちを是非将来のリーダーにしたいものです。

橋本 圭子（東京都立青梅総合高校2年）

森の中を色々な物を見たり、観察しながら歩くのが楽しかった。少人数（5人）だったから、皆と話しながら歩けるし、1人1人と色々できたからよかったと思った。

雨の時でも、森に行ってムッレ教室ができたからよかったと思った。雨だったからこそできるのがわかってよかった。雨だったから、ミミズとかカエルなどを見れたり、さわれたから自分にとっても、皆にとってもいい経験になったと思った。

（雨の日でもこんなに楽しくなる。みたいな感じで。）

原島 史（美しい多摩川フォーラム事務局）

今回は、「山に親しむ」をテーマに自然体験館及び山でムッレ教室を行いました。

①前회のごみ（りんごの皮・ペットボトル）が、時間が経つとどのように変化するかを観察する。

②自然循環のお話をする。

③山へ移動し（移動中も動植物を観察）、山での約束事を3つ、子どもに教え、確認する。

④山を散策する。その際、山のごみは拾って持ち帰る。

⑤秘密の袋（袋の中身を触って、同じものを山で探すゲーム）を行いました。

台風が接近する中で子どもたちが心配でしたが、無事に終了して良かったです。

子どもたちは滑らないように自ら考えて行動していました。例えば、自分が危ないと感じた時は、自分の持っているごみ袋を近くの大人やお友だちに頼んで持ってもらい、身軽になってから動くなど工夫をしていました。自発的に山に落ちているごみを拾う姿が好印象でした。

小さな生き物をすぐに見つけられる観察力など、子どもの行動一つ一つに驚かされました。（女の子がミミズを触ったり、ミミズの生態を説明してくれた時も驚きました！）

雨天だったこともあり、普段では見られないだろう生物（ミミズ、サワガニ、カエル、ヒル）やコケ植物を観察しました。「雨だから丸太の橋を渡る時はいつも以上に注意して渡ろう！」など、雨天だからこそ気付かされた部分もありました。また、子どもを躡ける先生からも多くのことを学びました。先生の褒めるタイミングや叱り方などから、子どもと向き合う際にどうすれば良いのかを学びました。子どもは皆の前で褒められると、他の子どもも良い影響を受け真似しようとする姿がありました。これは他のムッレ教室でもどこでも応用できると思いました。ムッレを超えて、子どもに対して何をすべきかを考えさせられました。高校生ボランティアの参加も大きかったです。子どもの「お姉さん」的存在がいる感じがして良かったです。

また高校生にも良い経験になった様子でした。本人は、「今回、もっと積極的に参加したかった。」と思ったそうです。また、「次回も参加したい！」と、前向きに頑張ろうとしている姿を見て私も嬉しかったです。子ども・高校生・大人（企業やNPO法人）といった地域が丸ごと協力して、出来ているのだなと改めて実感しました。一方、子どもの「速さ」に時々ついていけない部分がありました。子どもが何かを見つけ、観

察する集中力は驚くものでした。同時に、小さな生き物などを見つけることがとても速く、大人は後で確認するばかりでした。しっかりしていて、頼もしい子どもたちに特に手助けすることもなく、私は子どもの行動を見守っていました。

こうやって子どものそばで「見ていること」も大切なことなのだなと感じました。

実施日時	<3> 2007年 11月 24日(土) 9時 ~11時 天気(晴天)		
保育園名	二俣尾保育園	参加児童年齢/人数	7歳/1人、8歳/1人、9歳/1人
指導保育士名	神林幸恵、尾形真由美、小林美絵		
参加ボランティア名	福田珠子、成末雅恵、橋本圭子(高校生)、奥野瑛子(高校生)		
プログラム概要	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ『石を集めよう』、・前回の復習(自然に入るルール他) ・多摩川探検 (石の形、川の役割、コケの存在)、石に絵を描く ・体験館内で上記の石を各自で隠す(次回へ繋げる) 		
こどもたちの様子 反省点	<p>前日に下重先生からアドバイスを受けた川、コケ、ミミズのお腹の話などを「きよさん(下重喜代)メッセージ」として伝えることが出来ました。</p> <p>初めて多摩川に下りた子どもたちは、石を重ねあって文字を書いたり、割ってルーペで覗いて感心していました。</p> <p>川の石と森の石の形の違いの理由も理解して、川の流れの違いを目前で見ることができ、自然の力を感じ取っているようでした。</p> <p>思い思いに拾った石を背中に感じながら、川の砂と山道の土の境界線にも遭遇することが出来ました。</p> <p>途中、切り株に生えたコケや石に生えているコケにも、運良く出会えました。</p> <p>石に絵を描くことには、慣れたものでクレヨン、油性マジックを使い、楽しい作品となりました。</p> <p>自分で一つの作品(石の絵)を選び、各自で隠して来月の楽しみへと繋ぎました。</p>		
	<p>人数が少なく残念でしたが、土曜保育の子どもたち(3名)も飛び入り&おいしいところ取りで参加してくれました。</p> <p>日々保育で行っている事が多く、またこの自然に感謝しながら次回への期待へと進めて行こうと思いました。高校生の発想が素晴らしい！！</p> <p>今回は、時間等考慮し、ゲーム、ひみつの袋は、次回にしました。</p>		

サポーターからの感想

成末 雅恵 (NPO 法人自然環境アカデミー)

河原に行つての観察会は子どもたちだけでなく、大人にとつても小石拾いに夢中になる楽しい会となりました。

台風の影響による河原の変化も大きく、風景や植物、泥や砂など実感することができました。

河原の石の形を見て、触れることによつて、山の石との違いが体でわかつたように思う。また、持ち帰つてそれに絵や色をつけることにより、イメージが膨らんだり、立体的なものに絵を描く難しさや楽しさを子どもたちと一緒に体験できた。

初めての晴天に恵まれたのも嬉しかった。

予定していたムッレ遊びや歌は時間の都合で出来なかったのだが、全てを消化しようとする途中半端になってしまうと思われた。

所々にムッレさんを登場させながら、今回はこれで最初から欲張らない計画で良かったのではないだろうか。

奥野 瑛子（東京都立青梅総合高校2年）

凄く楽しかった。

自然と触れ合うことも出来たし、子どもたちと一緒に話す事もできた。

またこんな機会があれば参加したいと思った。

今日参加して本当に良かったと思った。

反省点としては、もっと子どもたちとコミュニケーションをとれば良かった。

もっと積極的になれば良かったと思った。

橋本 圭子（東京都立青梅総合高校2年）

川に行って石を拾ったけれど、色々な形や色があって見て楽しかった。

普段は小学生とか関わり合うことがあんまりないから、来て良かったと思った。

石に絵を描いた時、小学生はやっぱり、感性が凄いと思った。

ムッレ教室のおかげで色々活動が出来て良かったと思った。

実施日時	<4> 2007年 12月 22日(土) 9時 ~11時 天気(曇り)		
保育園名	二俣尾保育園	参加児童年齢/人数	7歳/1人、8歳/1人
指導保育士名	尾形真由美、神林幸恵		
参加ボランティア名	成末雅恵、森下英美子、奥野瑛子(高校生)、峰雄裕輔(高校生)		
プログラム概要	・リース作り、・つる採り、・自然観察		
こどもたちの様子	クリスマス前ということで、リース作りを計画する。体験館より川までの山道の中でリースに必要なつる、実などを見つける。木に巻きつくつるをよく観察。積極的に見つけることができていた。途中木の皮が剥がれた木を見つけると、「何故このようになったのか」を聞いたりとルーペを用いて観察もする。初めてムッレに参加する子どもが1名いたが、ルーペの使い方を子ども同士で教える姿も見られ嬉しく思う。リース作りでも自然に感謝し、世界でたった一つの作品が完成。2名の子どもは満足した表情で帰る。		
反省点	天気の都合もあり、予定の山での教室ができず、残念に思う。前回参加した児童がおらず、先日、川で拾い、体験館にそれぞれ隠した石を見つけられなかった。次回行きたい。		

サポーターからの感想

森下 英美子 (エコプロデュース代表)

リース作りはとても楽しかったです。

子どもたちに体験してもらおうというより自分が体験させてもらったという感じです。

一方で、生き物との出会いをもっと見せてあげられたらよかったなと思いました。リース用の植物の葉についていた虫を見せてあげたところ、「この虫どうするの?」と聞かれてどっきりしました。

巣のようなものを作って越冬していたので、「このまま冬越しさせてあげましょう」と答えましたが、少しひっかかるものが残りました。

成末 雅恵 (NPO 法人自然環境アカデミー)

いつもは楽しいムッレ教室ではあるが、今回は大人のリース作りということで、大人が夢中になれる企画だった。

材料を山に採りに行けるという環境がすばらしい。また木から1本1本ツルをはずすことによって、改めて木を育てることの苦労なども実感できた。リースの飾りという目的を持って山に入ると色々な色の実や葉が目に入ってくる。明日は自然環境アカデミーのクリスマス会なので、沢山作ったリースをオークションで売りたいと思っている。また竹細工で携帯電話を置くスタンドや一輪飾りを浜野さんにも作って頂き、色々な自然のプレゼント(オークションの品)をゲットできて嬉しい。それにしても毎回楽しいムッレ教室に参加する子どもが少ないのが残念である。

子どもたちも忙しいのであろう。また、大勢参加できるよう予定をあらかじめ知らせるようにすると良いかもしれない。

峰雄 裕輔（東京都立青梅総合高校1年）

とても楽しませてもらいました。

寒かったけど、また次回も参加したいです。僕自身、自分でリボンを結べるようになりたいです。

実施日時	<5> 2008年 1月 26日(土) 9時 ~11時		天気(晴れ)
保育園名	二俣尾保育園	参加児童年齢/人数	3人(男1、女2)
指導保育士名	神林幸恵、尾形真由美、小林美絵		
参加ボランティア名	福田珠子、森下恵美子、成末雅恵、浜野富雄(自然体験館)		
プログラム概要	<p>「冬の山探検」をテーマに山に入って冬探しをする。</p> <p>以前隠しておいた石を探し、(山にゴミをおかないという石に書いたコメント)も。子どもの手で山に置く。</p> <p>実際に手で自然に触れ体感する。</p>		
こどもたちの様子	<p>集合した体験館の足元の霜柱に気付き、踏んで感触を楽しむ。</p> <p>以前隠しておいた石がなかなか見つからない女の子は、諦め切れず最後によく見つけ出し、皆に報告していた。山に入ると山水が凍った「つらら」を発見。素手で触れ、その場に置き、後でどうなっているか？期待しながら山へ…</p> <p>小さな沢でなんと水面に薄い氷が張っており、窓ガラスのような氷に歓声があがる。</p> <p>雪にも出会え、凍って結晶のようにも見え、霜柱をルーペで見ている時に、同じ木の枝から緑色の枝を子どもたちは発見する。3つの「ムッレさんクイズ」もパーフェクト回答…</p> <p>「どうせムッレさんには、会えないんでしょう…」と女の子。</p> <p>次回は今日の氷、つらら、霜柱はどうなっているのか？</p>		
反省点	<p>担当の自分が一夜漬け的知識で山に入ったが、自然の前では、驚きと歓声で夢中になってしまった。大きな声では言えないが、大人だけで時間を気にせず山を歩きたいですね。</p> <p>と本音が出てしまうほど楽しかった。ムッレゲーム、ピクチャーシアターは次回へと見送る。冬眠、冬越しする動植物の話まで進めなかった。</p>		

実施日時	<6> 2008年 2月 23日(土) 9時 ~11時 天気(晴れ)		
保育園名	二俣尾保育園	参加児童年齢/人数	6歳・7歳・9歳/4人
指導保育士名	神林幸恵、尾形真由美、小林美絵		
参加ボランティア名	福田珠子、下重喜代、森下恵美子、浜野富雄(自然体験館)		
プログラム概要	<p>今まで経験したムツレ教室を思い出す。</p> <p>山に入り、自然の道クイズやゲームを楽しむ。</p> <p>ムツレさんに出会い一緒に過ごし、自然を大切に作る心を大人になっても忘れない。</p>		
こどもたちの様子	<p>最後のムツレ教室となるが、4名の子どもたちは、楽しく参加できていた。</p> <p>下重先生にも参加して頂き、自然(植物)についての話を真剣に聞き、答える姿を見る事が出来ました。ムツレとの出会いで、ムツレという存在を信じているようで交流できることを喜んでいました。</p> <p>「自然道クイズだ」は、前回教えて頂いたものをクイズにすると、きちんと覚えており、答える姿を見れて嬉しく思う。</p>		
反省点	<p>第1回目より、全部に参加してくれた子どももあり、良かったと思う。</p> <p>ムツレとの交流で、ゲームなど予定していたが、時間の都合上行うことが出来なかった。</p> <p>参加した子どもが小学生ということもあり、ムツレという存在をどのように受け止められるかが心配だったが、森下さん(ムツレ役)の子どもへの声かけもして頂き、4名の子どもたちは信じてくれたのではと思う。</p> <p>下重先生にも自然について理解しやすい言葉で指導して頂き、学ぶことが出来た。</p>		

②多摩川の森・ムツレ教室 レポート(友田保育園:計4回)

実施日時	<1> 2007年 10月 27日(土)9時 ~11時 天気(雨)		
保育園名	友田保育園	参加児童年齢/人数	6歳/6人、5歳/1人、4歳/2人
指導保育士名	末次桂子、五十嵐		
参加ボランティア名	森下英美子、堀井美緒(高校生)		
プログラム概要	<p>雨について考えて学ぶ:降っている雨の量を測ってみる(ペットボトル使用)</p> <p>雨の行方(川を作ってしずくになって遊ぶ)</p> <p>雨音クイズ(缶・ビン・ダンボール・バケツ・ビニール傘・スチロール)</p> <p>ゲーム(ムツレ鬼・巣を変わろう)</p>		
こどもたちの様子	<p>雨の量を測る:興味津々に取り組む。自分たちで考えた後、雨がたまっていなかったことに、残念がる子どもが多かったが、家に持ち帰って計ってみると期待していた。</p> <p>雨の行方:すぐそばに川があり、川に遊びに行くことも多いのに、「降った雨はどこに行く？」に余り意見が出なかったのが残念。今後意識していく。絵の具を使って川を書き、自分が雨のしずくだったらどこに行く？これは楽しんで取り組んでいた。</p> <p>川に落ちてかみなりのところ跳ね返る。マンションにおちる。岩におちる。</p> <p>海までいく。等様々な意見と絵ができてよかった。</p> <p>ゲーム(スウェーデンのクイズという話にとっても盛り上がる)</p>		
反省点	<p>ムツレ教室ではなく、「お外大好き教室」にする。</p> <p>雨音クイズ(小雨になり、クイズが無理になり、延期する)</p>		

実施日時	<2> 2007 年 11月 24日(土)9時 ~11時 天気(晴天)		
保育園名	友田保育園	参加児童年齢/人数	6歳/2人、5歳/2人
指導保育士名	小松スミエ、松永		
参加ボランティア名	森下英美子		
プログラム概要	<ul style="list-style-type: none"> ・エコについて・散歩の目的地の間、ゴミを拾う。 ・地球のしくみについて話す・ひみつの袋を使用する。 		
こどもたちの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・虫メガネを使用→太陽を見てはいけないことを話す。 ・目的地(公園)までゴミを拾いに歩く→歩き始めは、ゴミが落ちていても気にならずに歩いていたが、保育士の行動で徐々に積極的になる。 ・拾ったゴミを並べる→色々な種類のゴミを認識させる。 ・簡単な地球のしくみについて話す。 落ち葉はいずれ土になること。カン等は何年かかってもそのままの状態であることを話す。 ・ゲーム「ひみつの袋」→木の枝・どんぐり・落ち葉の3種類で行う。 袋の中に手を入れ、さぐる。未知のことでおそろおそろ手を入れる子もいた。 		
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・虫メガネを使用し、大きくなって見えることを認識、帰路の際いろいろな物を手当たり次第に見て楽しんでた。 ・ゴミの認識について、子供たちの中にはインプットされた様子、自主的に拾い、「綺麗になったね」、「地球が綺麗になった!」「皆で拾うとすぐ綺麗になるね!」等、様々なつぶやきが聞かれた。 ・年長児はすぐに対応していたが、年中児は後半になり、やっと自主的に動けるようになった。 		

実施日時	<3> 2007年 12月 22日(土) 9時 ~11時 天気(曇り)		
保育園名	友田保育園	参加児童年齢/人数	6歳/5人、5歳/4人
指導保育士名	末次桂子、堀口		
参加ボランティア名	下重喜代、白井みか(大学院生)		
プログラム概要	<p>冬の野山を歩く。(身近なものを観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森のムツレのパネルシアターを見る。ムツレ誕生を知る。 ・野山を歩きながら苔、シダ、落ち葉の下にいる生き物などをルーペを使って見る。 ・自然の中での3つの約束を知る。 ・ゲーム:落ち葉を集める(大きいもの)。種類や大きさを比べる。ひみつの袋。 ・五感を使って遊ぶ。(ヒノキのにおいをかぐ、耳を澄ます、周りを見るなど) 		
子どもたちの様子	<p>各自ルーペを喜ぶ。「日々歩いている道なのに、こんなところを観るの?すごい!」、 「虫がいたよ」、「くもがいたよ」と色々な発見があり興味津々の時間だった。 年中児は、「汚れた手はどうするの?」、「こわーい?」、「やだー!」との声もあったが 年長児はほとんどそのような声はなかった。 ヒノキの葉を手ですりあわせにおうと、「あっ、知っているにおいだ!」と盛んににおいを嗅いで いた。数回目の参加になる子はエコについて3つの約束など理解しており、大きな声で 質問時には答えていた。 ムツレ誕生のシアターは自分たちも参加するということもあり、興味深げであった。</p>		
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・少し寒い1日で防寒着のない子(1名)には大変だったようだ。事前連絡を! ・指導着というか参加保育士がもっとたくさんいたら…、せっかく下重先生のお話や指導方法が聞けたし、観られたのに…と思った。 <p>下重先生の指導に短い2時間余りがとても充実した時間となり、 学ぶものの多い1日だった。ありがとうございました。</p>		

サポーターからの感想

白井 みか (東京学芸大学大学院環境教育専攻)

くもり空で肌寒い日だったので、子どもたちも少し寒そうだったけれど、道で見つけた植物や動物にみんな興味を持ってきて、素直に新しい発見に驚いていたので良かったなと思います。

初めに教室でムツレ誕生のお話を読ませてもらって、絵を貼り付けるのをみんなで

楽しんでやっていたのを見て、(この手法で) 知識を織り混ぜて物語を語るのは子どもたちに受け入れやすいのだなということがよく分かりました。個々にあった知識や実際の植物・動物との出会いで、子どもたちの発見がつながってゆけたのではないかと思います。

近くに山もあり豊富な植物や動物もあるので、この自然を生かした取り組みが続いていってほしいと思います。

今回、身近な植物・動物を扱った時に名前が分からなかったりするものがあつたのは、もう少し自分で知識を増やした方が良かったと思います。

知識と発見の出会いをつなげるような助言を出来るようになりたいと思います。

実施日時	<4> 2007年 2月 8日(金) 1時 ~ 3時10分 天気(晴)		
保育園名	友田保育園	参加児童年齢/人数	6歳/16人
指導保育士名	末次桂子、小松スミエ、榎澤年長担任、宇津木園長		
参加ボランティア名	職場体験者(中学生)		
プログラム概要	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中におにぎりを作って(各自で作る)持っていく。近くの天王山から八雲神社へ。 ・自然の道クイズ5問を解きながら自然について知り、関心を持ちながら参加する。 ・ゴールの八雲神社で宝物探し(身近な草花のカード)をする。 ・ゲーム(巣を変わろう)をする。 ・おやつを食べる。 		
こどもたちの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・普段歩いている散歩道だったが、雪の残る道で、少し違う感じが出発。 ・クイズ大好きの子もたちで興味津々。問題が分かっても、分からなくても興味をもって参加していた。普段はスーっと通り過ぎる道も、この本は何の木?この名前は?と積極的に行動! ・ヒノキの葉っぱを渡し、もんで嗅がせると、「知っているにおい」「いいにおい」と、すぐ声が返ってくる。くちなしの実を見つけ、「かわいい」。ろう梅の黄色の花を手に取り、「いいにおい!」など、子どもからの声がとても多かった。 ・自然のリサイクルの話聞き、その時に耳にした『微生物』という言葉に興味をもち、園に戻っても口にしている子どもたちが多かった。 		
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・宝物のプレゼントを喜び、1つずつ名前も書いておいたので、もらった後、自分たちで読んだりしており、良かったと思った。少し寒かったので、温かい飲み物にしてやれば良かったかなーと思った。自分自身知らない草花が多く、教えられなかったりすることが多く、勉強不足を実感。(後で調べようと声はかけたが) 		

③多摩川の森・ムッレ教室 レポート(古里保育園:計1回)

実施日時	<1> 2007年 11月 9日(金) 9時30～15時 天気(晴天)		
保育園名	古里保育園	参加児童年齢/人数	5歳/16人、6歳/18人
指導保育士名	師岡さと子園長、内藤博美、岡部弘美		
参加ボランティア名	梶野光信(東京都教育庁生涯学習部)、宮坂不二生(美しい多摩川フォーラム事務局長)、荻野勇(同フォーラム事務局)、原島史(同フォーラム事務局)、白井みか(大学院生)		
プログラム概要	<p>狙い: 森の厳しさ・楽しさを味合おう。地域の人との交わりを持とう。</p> <p>(小丹波 寸庭～鳩ノ巣 坂下方面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山道を歩きながら、山の歩き方を覚える。(危険のないよう 自分の目で見てしっかりと歩く) ・ 山の様子を見る。 ・ 地域の人と交わる。(挨拶・お話・敷地内見学など) 		
こどもたちの様子	<p>実踏のあと、「すごい山道だった」ということを報告した。「登れないんじゃない?」と言うと、「行ってみたい」、「絶対に登る!」との声。すごい山に挑戦するんだ!!という気満々だった子どもたち。前回の遠足では平らな道で長距離歩いたのだが、その時には「疲れた」「あとどの位?」の声が多かったのだが、今回は厳しくても前回のような声はなく、歩くことができた。普段あまり話を聞いてなくて、行動の途中で助言しなければならない子がずっと先頭を歩き、興味津々…。どの子もみんな目が輝いていた。</p> <p>最後の遠出に今回の山はとても良かった。参加していただいたボランティアの方に対して、はじめはおとなしく接していたが、午後には十分うちとけて楽しそうだった。</p>		
反省点	<p>ループを持って行ったが使わずに終わってしまった。</p> <p>園への帰着時間は予定より30分早かったが、現地での状態で電車が一本遅くなってしまった。(予想はしていたが・・・)</p>		

サポーターからの感想

白井 みか (東京学芸大学大学院環境教育専攻)

初めてのムッレ教室参加だったので、実際に子どもたちに上手く接することができるのか、不安がありました。けれども、子どもたちは本当に無邪気で、元気でかわいくて、一緒にいるだけで楽しく過ごすことが出来たと思います。

実際の植物や生き物の「知識」に関しては園長先生が子どもたちに分かりやすく教えていたように思います。また、地元の方が子どもたちに命について教えたり、その土地の食べ物を下さったりして、とても地域性が生かされたプログラムだったと思います。

子どもたちが半日かけて山に登ることができたことも、子どもたちの身心の健康によ

い影響があると考えられ、自然環境の知識や教えだけにとどまらない、「体で考え、感じる」ことができるプログラムでよかったと思います。

私自身の問題として、もう少し夏の研修で学んだ方法や知識を生かせればよかったです。道路や交通の危険性もあり、また山登りも注意を要するものだったので、なかなか子どもたちと「環境」についての話ができなかったことが残念です。今後、改善してゆけたら、と思います。

原島 史（美しい多摩川フォーラム事務局）

私がとても印象的だったことは、近所の方々がとても親切にしてくれたことです。

例えば、①通る際に手を振って挨拶して下さる。②私たちが来るのをわざわざ見計らって、庭先まで入れて下さる。③お昼にテーブルと椅子を用意して下さる。④生きている鱒をたらいに入れて触れさせて下さる。⑤古くからある土蔵やムロを見学させて下さる。⑥お土産にもぎたての果物を下さる。などです。

食事の際になぜ「いただきます」「ご馳走さま」を言うことが大切なのかを、地域の方から教えていただき、とても嬉しかったです。「生物にはみな生命が宿っており、それを人間が生きていくために食するので、命を『いただきます』と言うんだよ」言われ、これも自然循環だと思いました。「ムッレ教室」とは名乗らないと伺い、どんな自然教室かなと思っていましたが、実際にやってみると、その土地らしさを生かした自然教室には、その土地柄ならではの大切なことが学べるとわかりました。例えば、自然教室を通して①近所の人②登山客など外部の大人③遠足にくる同い年位の子どもたちと、自然を通してコミュニケーションが出来ること。

それ以上に、古里保育園の先生の機転や配慮のおかげで、自然教室が行われるまでの下準備がきちんと地域に行きわたっていたため、地域が丸ごと一緒になって、この自然教室に協力してくれました。地域で子どもを育てている印象を受けました。

リーダー養成講座では見られなかった「人とのふれあい」が、古里保育園の自然教室にはありました。リーダー養成講座には「人とのふれあい」には、あまり視点が置かれていなかったと思います。例えば、ムッレには「自然のシステムを発見」し、自然と「人との共存」を考えていく…といった、自然と人間の歩み方などは学びましたが。ムッレが「『自然』と『人』」だとしたら、古里保育園は「自然の中で生きる人及び生活」だと感じました。

近所付き合いを大切にする土地柄を守りつつ、いつも身近にある自然を違った視点（ムッレ）からも見ていこう、としているようでした。大自然の中にも生活のにおいがあって、源流水を味わい、山の中に暮らす人に顔見せに行くなど、おそらくファンタジー溢れるムッレでは考えられないと思います。また、スウェーデンと日本（古里）の自然に対する考え方の違いなどもあると思います。しかし、両者も自然の中に入ること、山に入るルールなど、結果的に共通して得られるものがあるとも思います。どちらも子どもにとって、とても良いと思います。今回の自然教室はいつもそばにある山の見方に、少しムッレで学んだこと（エッセンス）を入れて、自分の土地に合った

独自の日本流ムッレ教室が行われていたと感じました。

個人的な考えですが、スウェーデン式ファンタジー溢れるムッレでなくても良いのではないかと、古里保育園の例を見て思いました。

スウェーデンは、森に土着の神や妖精（ファンタジー）がいることを「ムッレ」という妖精で表現し、自然教室に登場させ、森に入るきっかけや、子どもの注意を引く際に利用していると思います。

しかし、東京西部（奥多摩など）では神道を大切にしている土地柄だと私は思います。ムッレのファンタジーのイメージとは少し違う気がします。

むしろ、土着の山神さまや、古くから伝わるその地域のお話に出てくるもののけ（妖精）を、その土地にあったやり方で子どもに伝えるのも良いのではないかなと思いました。例えば、古里の「近所付き合い」のよさを上手く使わせていただき、子どもが来るのをいつも楽しみにしている近所のお年寄りたちにご協力していただきながら、その土地ならではの山に住む妖精などのお話を簡単に教えてもらってから、山に入るなど、方法はいくらでもあると思います。

また、自然と地域と地域の歴史（文化）が生かされると思います。ムッレで学んだことを、山に入る基本の中にエッセンスとして入れていく一方で、地域・人・文化もいれて、子どもに自分の生まれ育つ土地柄（故郷）や生活の知恵さえも、吸収してほしいと感じました。

ただし、大自然や人と人との触れ合いが未だに残っている奥多摩ならではの特殊事情もあり、東京23区のような場所では実現は難しいとも感じました。

多摩川フォーラムは「次世代を担う子どもたち」に多摩川の良さを受け継いでもらおうとしています。そして教育文化の視点で自然と関わるマナーなどを、ムッレなどを通して学んでいます。

地域の人から学ぶ土地柄・生活習慣・土地の文化までも丸ごと必要な中、地域の力は弱まり、希薄になっていると思っていました。しかし、古里保育園の自然教室を通してカルチャーショックを受けました。次世代のために大人が力を合わせることで、それが子どもの「故郷」をつくること、その故郷は「多摩川」を中心とする山や文化であることに、改めて気付かされた自然教室でした。

④多摩川の森・ムッレ教室 レポート(オリンピア保育園計5回)

実施日時	<1> 2007年 9月 21日(金) 10時 ~11時20 天気(晴れ)		
保育園名	オリンピア保育園	参加児童年齢/人数	4歳/17人、5歳/17人
指導保育士名	松本雅子(リーダー)、鈴木、日橋、赤池、小泉、中村、吉野園長、		
参加ボランティア名	下重喜代、原島史		
プログラム概要	自然のエチケット(布多公園)、ゴミを拾う(ゴミ・ゴミでない物の区別)、自然の中でしていいこと、悪いことを知る(3つの約束を知る)、森のムッレのパネルシアターを見る、自然の循環についての話を聞く、草・花・虫・コケをルーペで見る。		
こどもたちの様子	暑い日だったが1人1人真剣に参加していた。ゴミ拾いも頑張っていた。きよおばさん(下重喜代)のクスノキの話などはとても良く聞いていた。きよおばさん、ふみおねえさん(原島史)の参加に大喜び。自然のなかでの実際の話にとっても良く話が聞けていた。ルーペを首から提げ、いろいろなものを嬉しそうに見る姿があった。		
反省点	蚊が多く、蚊の対策を考えていく。(次の日、家庭よりの連絡に蚊に数箇所さされた旨の記述がなされていた。)自然活動の時は長袖・長ズボン着用にしていきたい。虫除けシートの利用なども各ご家庭に知らせていきたい。		

サポーターからの感想

原島 史 (美しい多摩川フォーラム事務局)

- ・ごみ(自然のごみ・人間のごみ)の分別をする。
- ・木の葉のにおい、自然の声をを感じる。
- ・ムッレ誕生のお話。自然の循環のお話。ルーペで自然観察。
- ・子どもたちは、公園で虫をみつけると喜んで、皆が集まっていた。
- ・ちゃんどごみの分別も理解しており、「これはガラスだから危ないよ。」と教えてくれた。「もっとごみないの?」と、積極的な様子だった。
- ・木の葉を取り合うことなく一緒に、あるいは、お友だちにあげていた。
- ・自然の声の中で、「ムッレ」の声が聞こえたらしい。(ファンタジーを信じている様子だった。)
- ・ルーペで自然を観察していると、帰りたがらない子もいた。皆、心から「ムッレ教室」を楽しんでいることがわかった。
- ・私自身、子どもたちと、もっと仲良く何かしたかった。

実施日時	<2> 2007年 10月 5日(金) 9時15分 ~ 13時30分 天気(晴れ)		
保育園名	オリンピア保育園	参加児童年齢/人数	4歳/19人、5歳/20人
指導保育士名	松本雅子(リーダー)、鈴木、日橋、赤池、小泉、中村、吉野園長、		
参加ボランティア名	高見幸子(国際 NGO ナチュラル・ステップ・ジャパン代表)、下重喜代、大久保希(大学院生)		
プログラム概要	<p>カニ山で自然の森クイズ・ゲーム・プレゼント探し。パン、シチューを皆で食べる。</p> <p>自然の道クイズ:カニ山を巡る・6問、チーム10名・カードを掲げクイズ、1問答える度にシールを貼っていく。ゲーム:巣を変わろう。特別ゲスト高見さんより森のムツレの話を聞く。カニ山(通称・熊の穴)に隠されたプレゼントを探す。</p> <p>野外での楽しい食事:パン・シチュー(今回は大人が作り子どもは食べるだけ)</p>		
子どもたちの様子	<p>遠足の日だったので期待感は強かった。「何して遊ぶの?」の声が聞かれる。首からカードを掲げるとますます楽しさ感が強くなり、問題の紙を我先に探そうと必死の姿が見られる。紙を見つけると「あったよ〜!」の声に皆がクイズの前に集まり、ひらがなが読める年長児がたどたどしいが一生懸命問題を読み、みんなで答えていた。正解のシールをもらい、また次の問題に走っていく姿がみられた。その途中に蜘蛛の巣を見たり、蜘蛛の話を聞いたりした。ゲーム「巣を変わろう」(高見さん・のりこおねえさんも参加)は、はじめてのゲームだったが皆で楽しむ事ができた。子どもたちの中には鬼になることを楽しむ姿もあった。ムツレの話は、高見さんから頂いた冊子(文字はスウェーデン語)の絵と話から何かを感じるのか、とても真剣に聞いていた。プレゼント探しでは、熊の穴のことをすっかり子どもたちは忘れてしまっているのか、アチコチ探してようやく見つけることができた。リーダーはほっとしました。袋の中に1人ずつ手を入れ、何が入っているのかを当てる。ニコニコの顔が見られる。待ちに待ったお昼。緑の葉陰、風を感じながらの食事に大なべ一杯に作ったシチューもあつという間に完食「ご馳走様でした」。お腹も心も幸せになりました。</p>		
反省点	<p>遠足前日は、引率職員で話し合いをもったが、現地での打ち合わせが出来ずにスタートしてしまったこと。(下見の不十分さ)。下重さんのように蜘蛛がいたら蜘蛛に関する話、銀杏の話に出会ったら銀杏の話が出来るように勉強していきたいと思いました。(松本)</p> <p>もう少しゆとりをもって歩き、自然の生き物(草花・小さな昆虫)にも目を向けられる余裕をもちたい。また、職員1人1人の自然への関心・興味を如何につないで向上させるかが、今後の課題だと思いました。(リーダー育成の必要性)(吉野)</p>		

実施日時	<3> 2007年 11月12日(月) 9時15 ~ 11時45 天気(晴れ)		
保育園名	オリンピック保育園	参加児童年齢/人数	4歳/20人、5歳/17人
指導保育士名	松本雅子(リーダー)、鈴木、日橋、赤池、小泉、吉野園長		
参加ボランティア名	斉藤亀三(コケ博士)、下重喜代、藤原淑子(東京都環境局環境学習担当)		
プログラム概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コケを知っていますか？(実物持参) ・コケを探そう。(センタイ類、地衣類、シダ類) ・コケを見てみよう。顕微鏡、ルーペで観察する ・水や空気が汚れると、水が汚いと、コケも病気になって死んでしまう(人に例える)。空気が汚いと死んでしまう。水質が変わると構成種が変わる。 ・地球を汚さないようにしましょう。 		
子どもたちの様子	<p>講師の話をよく聞いていた。コケ探しに農場をあっちこつちと駆け回る姿がみられた。「あったよ」と大きな声が聞かれ、コケを見つけると大人の手を引いて、その場所に連れて行った。「どこどこ」と子どもたちも集まっていた。</p> <p>顕微鏡・ルーペなどでコケを一生懸命見る姿が見られた。帰り道では、行くときには気付かなかったコケを見つけ、喜ぶ姿が見られた。</p>		
反省点	せっかく自然の多いところに出かけたので、お弁当持参でゆつくり楽しみたかった。		
評価	<p>今まではあまり「コケと私たち」ということを考えたことがなかったが、改めてコケが生活に密着し、大切なものだということがわかった。(松本)</p> <p>コケの話を聞いた直後から、子どもたちの反応は素晴らしい！「ホラホラここにもコケがある。踏まないで」と。私たちは自然界にある動植物の共存をキチンと知らせていくべきだと思います。(吉野)</p>		

実施日時	<4> 2007年 12月 1日(土) 9時30分 ~ 11時45分 天気(晴れ)		
保育園名	オリンピック保育園	参加児童年齢/人数	4歳/2人、5歳/4人、親子参加3組
指導保育士名	松本雅子(リーダー)・吉野園長		
参加ボランティア名	下重喜代・森下英美子		
プログラム概要	野川クリーン作戦に参加、野川河川敷にてゴミ拾い、野川の自然を楽しむ。		
こどもたちの様子	望遠鏡を使い野川の野鳥(マガモ・コサギ・カルガモ・カモメ)をみる。「へえ~きれい」「わあ! おつきみえる」と驚きの声が聞かれる。しかし片目を瞑るとということがむずかしい子もいた。ゴミを拾うが興味がコケ・草花・虫にむけられている姿も見られた。下重さんが草などが土に還る時、小さな虫(ミミズ・トビムシ)が働いている様子を実際に見せてくれたり、大きな葉っぱ、小さな葉っぱ比べのゲームをしながらだったので、飽きることなく楽しんでた。		
反省点	人数的にはとても恵まれ、ゆっくり楽しむ事が出来たが、もっとたくさんの友だちにも体験してもらいたかった。		
評価	天気に恵まれ、紅葉が綺麗に見られ、良い一日でした。野鳥がいて、魚もいて、川の水もまだまだ綺麗な野川。今より汚れてしまわないようにしていきたい。		

実施日時	<5> 2008年 1月 31日(木) 9時35 ~11時45 天気(晴れ)		
保育園名	オリンピア保育園	参加児童年齢/人数	4歳/17人、5歳/17人
指導保育士名	松本雅子(リーダー)、鈴木、日橋、赤池、小泉、中村、吉野園長、		
参加ボランティア名	梶野光信(東京都教育庁生涯学習部)、下重喜代、森下英美子、及川清隆(美しい多摩川フォーラム事務局)、原島史(同事務局)、松尾麗香(大学生)		
プログラム概要	<ul style="list-style-type: none"> ・カニ山にて ・自然の森クイズ(3問):ムツレ登場、お話、おやつ ・ゲーム(巣を変わろう、大きい葉っぱ・小さい葉っぱ探し、鳶の羽の下) ・ムツレとのお別れ、ムツレからの手紙を読み、プレゼント探し、プレゼントをみんなでわける。 		
子どもたちの様子	<p>今日はムツレに会えるということで、出発時よりソワソワ・ワクワクの子どもたち。カニ山に到着すると「ムツレさんはいるのかな?」という声もきかれる。自然の森クイズ以前にも経験しているので、クイズを探しながら楽しむことができた。森での3つの約束は、しっかり身に付いている。</p> <p>さあ!いよいよムツレを呼ぶ。いち・に・さん「コリコック」「・・・」何の返事も聞こえない。もう一度「コリコック」(子どもたちの声も大きくなる)。呼んだ後すごく静かな時間が流れ、「オーイ」のかすかな声に子どもたちのキョトンとした表情がとてもかわいく印象的でした。子どもたちの関心は、ムツレのしっぽ。引っ張る子が何人も。ムツレと一緒にゲームもとても楽しそうに行っていた。お別れにムツレからの手紙、やつでの葉っぱの手紙に皆釘付け。プレゼントのどんぐりのペンダントに大喜び。「ヘイドー」の別れ声がかニ山に響きました。皆笑顔・大満足の1日でした。</p>		
反省点	<p>事前にムツレ役の森下さんと下見・打ち合わせが出来たのがよかった。</p> <p>プレゼントの袋・布袋にするのを忘れてしまった。</p> <p>虫眼鏡を必ず持っていく。</p>		

サポーターからの感想

森下 英美子 (エコプロデュース代表)

ファイナルでムツレをやらせていただきました。

子どもたちの顔を見るまではドキドキでしたが、出会いの後はずっと楽しいひと時でした。

森のお約束もみんなが覚えていてくれて、きっと大人になっても忘れないでいてくれるだろうと思いました。「また来てねー!」と声をかけてもらったのが嬉しかったです。またしっぽがあれば興味をもたれるとは思いませんでした。最後に皆が「ヘイドー!」と呼びながら帰っていった時、遠くからのムツレの「ヘイドー」が聞こえるかしら?少し声が小さかったかもしれません。

今回、一番の反省点は「巣をかえよう」の時に、ムツレのかつらがずれてしまったこ

とです。あわてて戻したけれど、気付いた子どもたちがいたかもしれません。鳶の羽の下は皆がカラフルな色の服を着ているので、ほとんどの子どもが通り抜けてしまいました。今度は名前に「あ」がついている人というようなくりにしてもと思いました。

松尾 麗香（オブザーバー参加：青山学院大学4年）

今回、実際に見学させてもらい、子どもたちが「森のムッレ教室」をととても楽しんでいる様子が分かりました。先生と一緒に、自然についてのクイズが載っている紙をわくわくしながら探し、見つけると嬉しそうに答えていました。妖精ムッレが出てくると子どもたちの様子が一気に変わりました。

ムッレさんに抱きついて、大歓迎でした。ムッレさんがエコロジーの話話を話している時も子どもたちの笑顔が絶えませんでした。きっとムッレさんのお話は心に残ったと思います。

また、ムッレさんとネイチャーゲームのような遊びも活発に行っていました。

葉っぱにも沢山の形や大きさがあることを子どもたちは体で感じていたようです。

いろいろな種類の葉っぱを目を輝かせながら見ていた子どもたちの顔が印象的でした。

「森のムッレ教室」を通して、子どもたちは、体全体で地球の中の生物の存在を感じ、生態系のつながりを自然に理解しているんだなと感じました。

子どもたちが自然を大好きになることは大切なことだと改めて思いました。

人々の生活は都市化に伴って、自然との触れ合いが減ってきているように感じます。

「森のムッレ教室」のような取り組みがさらに広がることは、将来を担う子どもたちにとって大切なことだと考えます。

原島 史（美しい多摩川フォーラム事務局）

子どもたちとは以前一度会ったことがあり、子どもたちもなんとなく覚えていてくれた様子で嬉しかったです。下重先生は「きよおばちゃん」と子どもから人気があり、また、「ムッレさん」は登場とともに、子どもからの大歓声で向かえられている様子でした。子どもはムッレ教室を「きよおばちゃんの日」、松本先生がお話してくれた「ムッレさん」に会える日＝「特別な日」のようなイメージを持っているように思えました。

振り返ると、ムッレ教室で会った子どもたちから大人が教わることが沢山ありました。例えば記憶力です。山道で見つけたわからないことをお友だちに質問したり、以前、先生から教わり、学んだことをお友だちに教えてあげられる。大人は子どもの質問にきちんと答えるために身構えて、保留してしまう所を（「保育園に帰ってから一緒に調べようね」等）、子どもは目で見たものをその場で覚えているので、自信をもって、喜んで、分かりやすくきちんと教えてくれます。また、子どもたちは一度覚えたことに対して自信をもっているな、と感じたことが多々ありました。「教えてあげるよ！」という感じで、誰かに教えてあげられることがとても嬉しそうでした。

また、「アリさん（他コケなど）は小さな生き物だから気をつけなきゃね！」など、教えてもらったことを注意しながら歩いている様子や、お友だちに教えてあげている様子から、感覚的に子どもたちは小さな生き物を大切に作る心、弱いものを慈しむ心が芽生えているのだな、と感じました。

子どもはムッレさんを大はしゃぎで迎えてくれました。「本当にいたんだー！」、「しっぽがある！！」と、大喜びでした。走り回ったり、飛び跳ねたり、「ムッレさんはいたんだよ！」と、私に報告してくれました。ムッレさんからもらったナッツ一粒の「おやつ」を、一口で食べるのではなく、大切に食べていました。

ムッレさんと一緒に遊び、とても嬉しそうでした。帽子についている羽、ムッレさんのしっぽ等、初めて見るものに興味津々で、目を輝かせる子どもたちの嬉しそうな顔がとても印象的でした。

調布のムッレ教室は、都会ならではの自然観察方法を見ることが出来ました。「限られた自然の中で、まず自分たちの足元にある自然を知りましょう。結構沢山あるでしょう？すぐに色々な種類の自然が見つかるわけではないけれど、ちゃんと小さいながらも生きているんだよ。」というようなメッセージをオリンピア保育園の先生方から頂いたような感じがしました。

青梅の野生的な自然は調布にはあまり存在しないでしょう。人工的な自然が多い都会だからこそ、自然を見出し、ムッレ教室で子どもに自然を体験してもらおうとする先生方の子どもに対する惜しみない愛情や努力を感じました。